



2024年度 会員数 **34,689**名
(2025年2月3日現在)



公益社団法人神奈川県看護協会

〒231-0037 横浜市中区富士見町3番1 神奈川県総合医療会館内
TEL.045-263-2901 (代) / FAX.045-263-2905
<https://www.kana-kango.or.jp/>



クリスマスイベント



リハビリテーション室



エントランス

K
A
N
A
G
A
W
A

看護だより

Vol.221
2025.03

Topics

- [健康ひろば] 認知症について
- [スペシャリストが行く] 認知症看護認定看護師
- 支部コーナーⅡ
- 2024年度 会員交流会レポート
- ビッグレスキューかながわ



野外リハビリが出来る歩道



今月の表紙

医療法人社団 明芳会
イムス横浜旭リハビリテーション病院

認知症

～認知症は予防可能?～



平塚市民病院 脳神経内科
 医師 福武 滋



はじめに

日本は、2025年に高齢化率が30%を超え、認知症患者さんの急増が予想されています。そんな認知症ですが症状がわかり難く、どのように対応していいのか?どのタイミングで受診すべきか?を悩む方が多くいらっしゃいます。今回は、そんな認知症について解説させて頂き一緒に理解を深められたらと思います。



認知症の2大症状「中核症状」と「BPSD」とは?

認知症の症状は大きく分けて2つあります(図2)。それは、認知機能障害によって生じる「中核症状」(例えば、記憶という認知機能が障害を受ければ物忘れが生じるなど)と、認知機能障害がある状態で苦痛などの外的因子が加わることで生じる易怒性や妄想などの「行動・心理症状(BPSD)」です。症状は2種類ですが、実際に障害される認知機能の種類や程度、苦痛とを感じる外的因子は、患者さんにより多種多様です。

これらの症状に対応するには、どの認知機能が障害されているのか?患者さんが苦痛と思う事は何か?をしっかり把握し、残存認知機能を活かせる環境調整や苦痛の除去を行うことが重要です。薬は補助的なツールでしかないことを理解しておきましょう。

「物忘れ」いつ受診すべき?

物忘れの受診のタイミングはいつか?それは、日常生活でトラブルがなくても、自分または周りの人から物忘れなど認知機能低下の「訴え」があり、かつそれが「年々進んでいる」という時です。なぜかという「軽度認知障害(MCI)」の可能性があるので。MCIは「認知機能は軽度低下しているが、日常生活に支障のない正常と認知症との中間の状態」です。認知機能の低下は軽度で検査で異常を認めない事も軽視されがちですが、無介入のままでは年間約10%の方が認知症へ移行します。いっばうで早期診断・介入を行う事で認知症への移行を防げるだけでなく、正常に戻る事もあるため、この段階での診断・介入が重要となります。注意点は、若年性(50~60代)では就労されている方が多いため、日常生活は問題ないものの、仕事の能率が下がりミスが多くな

るといった症状から始まる事があるため、「うつ病」と勘違いされやすいことです。「日常生活は問題ないけど、時が経つにつれ物忘れ症状が増えている、仕事のミスが増えた…」という方は、MCIの可能性があるので、ぜひ受診をご検討ください。

認知症は予防可能?

2014年に行った2025年時点での65歳以上の認知症の有病率調査では、有病率は20%と予測されていましたが、2024年度の調査では、なんと12.9%に減少(約200万人減)しました。これは、喫煙率の低下や生活習慣病の治療法の発達などの影響と考えられ、生活習慣の改善が認知症の予防となる事が示されました。また海外の報告では、認知症のリスクには修正可能なもの(図3)があり、個人・国を挙げた予防への取り組みの重要性が論じられました。そして、そのリスクは「中年期」に多く、40歳頃からの早い段階から認知症予防を行う事が勧められています。歳をとってから気をつけるのではなく、自分のため、大切な人のために、今から認知症を予防するための取り組みを始めましょう!

認知症ってナニ?

認知症は「意識障害がない時に、一度正常に発達した認知機能が、後天的な脳の障害により持続的に低下し、日常生活に支障をきたすようになった状態」で、簡単に言うと「何かの原因」によって認知機能が低下し、日常生活にトラブルが生じている状態です。つまり、認知症は「原因」があるはずなので、この原因を特定し治療やケアを計画することが診療の第一歩となります。既往に「認知症」とあるけれども、原因が曖昧で、ケアがうまくいかないという患者さんがいらっしゃる時は、診断の見直しから立ち戻る必要があるかもしれません。

物忘れ+脳萎縮=アルツハイマーは大間違い!

認知症の原因は、アルツハイマー型認知症(AD) 67.6%、血管性認知症 19.5%、レビー小体型認知症 4.3%と、これらが約90%を占めており、認知症3大疾患と呼ばれます。しかし、認知症を起こす原因は多数あり(図1)、中には赤枠で示す「治る認知症」が紛れているため慎重な鑑別が必要です。よって、「物忘れ+脳の萎縮=AD」と安易な診断をするのではなく、診断の際は画像検査のみならず詳細な病歴聴取と全身の診察がとても大切になります。

図1 認知症の原因



図2 中核症状と行動・心理症状

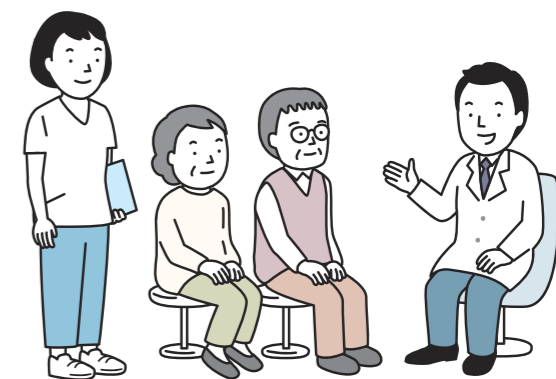
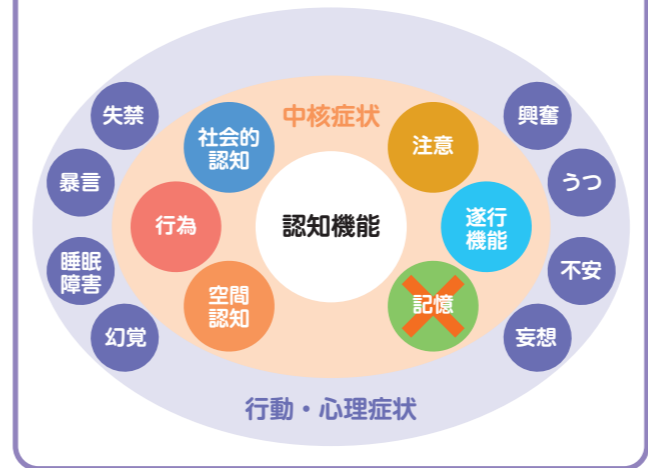


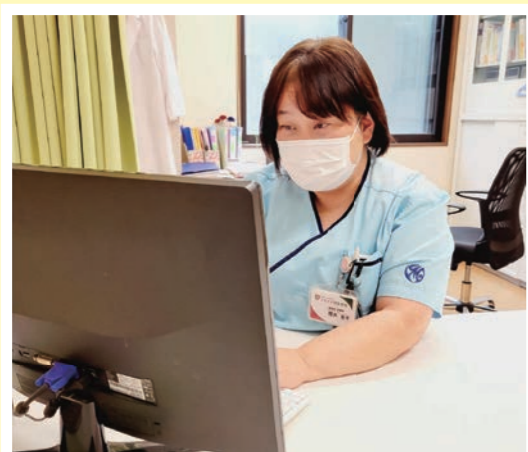
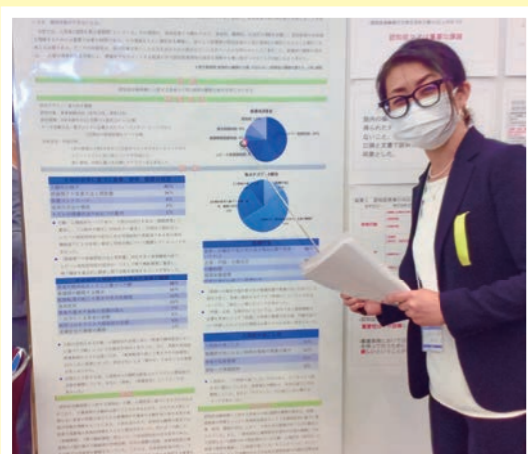
図3 各年齢における認知症の発症リスク



スペシャリストが行く！

認知症看護認定看護師

医療法人 三星会
かわさき記念病院



認知症看護認定看護師（2021年取得）
鈴木 良子

私が「認知症看護」に出会い、認知症看護認定看護師を目指すきっかけは、当院の開設時スタッフとして就職したときでした。それまでの私は「認知症」の治療、適切なケアを行った経験がないまま外来勤務をしていました。いままで対応したことのない認知症の方々との出会いは私に様々な経験を与えてくださいました。

病棟に異動後、自分が経験してきた感覚は他者へ説明しきれない自分に気が付きました。私には「専門知識」が足りなかったのです。さらに自分が認知症の方々との対応で感情に振り回される事もありました。患者の状況や疾患を理解し適切にアセスメントしながら患者との関わりを工夫する事が必要なのではないかと、そして負の感情をコントロールするためには豊富な知識と技術が必要なのではないかと思いました。そんなとき看護部長からすすめられ2021年資格取得しました。

現在も、病棟勤務で認知症の方々の入院生活を支えています。それと同時に院内や地域での講義活動もしています。患者に一番近い職員がよりよいケアを提供できるよう関わっていく必要があると考えています。私たちの対応一つで認知症の方々の精神状態は左右されてしまうからです。認知症の方々を尊重したケアはもちろん、職員も笑顔でケアに携われるよう関わっていきたくと思っています。そのために、院内での認知症研修や事例検討会などの取り組みを行っています。困難事例に対し各病棟での意見交換などを行い、情報共有や知識の向上、ケア力の向上を目指しています。



認知症看護特定認定看護師（2023年取得）
櫻井 良子

一般的に「認知症にだけはなりたくない」「認知症になったら人生終わり」とのイメージをもつことが多いです。当院のような認知症疾患専門病院へは、患者さんご家族は多くの覚悟を持って受診されます。専門病院の看護師として接する際、その場しのぎの対応や生半可な態度では通用しません。患者さんご家族の苦悩に専門性を持って関わりたいと強く思い、認知症看護認定看護師の資格を取得しました。

私は外来で勤務をしています。患者さんは徐々に日常生活に支障を来し周囲に行動を否定されるなど、苦しい時間を過ごしています。またご家族は、認知症の人の行動に、つい腹を立ててしまう、叱ってしまう、優しくできない自分を責めてしまうなど、お互いに傷ついた気持ちを持って受診されることも多いです。そのような中で、患者さんご家族に「思い切って来てよかった」と、少しでも思っていただけの看護を提供したいと考えています。

認知症の治療は非薬物療法が重要です。その人に合った生活環境を整えることが大切になります。限られた外来受診時間の中で、患者さんの疾患の特徴を踏まえ、どのようにすれば、これまでの生活を継続していただけるのかを患者さんと一緒に考えます。また、ご家族には、24時間一緒に生活する上での悩みを表出して頂ける場を作ることを大切にしています。患者さんご家族ができるだけ長く、穏やかに療養できるよう支援していきたくと思っています。

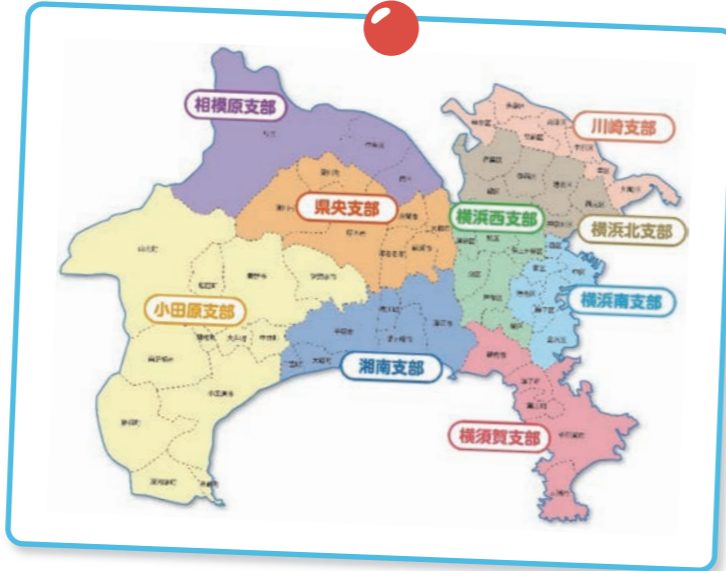


認知症看護特定認定看護師（2024年取得）
若年性認知症支援コーディネーター 保健師・看護師
高橋 萌

「認知症の人が少しでも安心した療養生活を過ごすために看護師として他にできることはないか」と考えたことが、認知症看護認定看護師を目指すきっかけでした。現在は、認知症看護認定看護師取得のために日々現場にて学びを深めている状態です。当院は、認知症により認知機能低下や行動心理症状を認め、地域での生活継続が困難な方が入院してきます。病棟の環境は少数病床のユニット形式に分けた小規模ケアを行っています。顔見知りの患者同士が日々の生活を共にして、同じような雰囲気での生活を継続できる環境です。しかし、どのような工夫を行っても認知症の人にとって入院生活は、精神的に大きな負担となる出来事です。入院直後は混乱した訴えを表出することが多くあります。その訴えは、認知機能障害の程度やADL、生活史や性格などにより違いがあり、「その人」を捉えた環境調整が重要です。そのため、家族や施設の職員など認知症の「その人」とこれまで関わってきた周囲の人との情報共有を入院時や面会時等に密に行っています。これらの情報を他職種とも日々の業務の中で共有し、患者に対して統一した関わりをすることで、患者が少しでも安心した生活を過ごせるように日々努力をしています。これからも、看護師として「その人」を捉えるために寄り添い、その人が安心できる療養生活の環境作りを継続していきたくと思っています。

支部 コーナー

このコーナーでは、各支部の活動やお知らせを掲載しています。
今回は、相模原、小田原、湘南、県央の4支部からの報告です。



相模原支部

(相模原市緑区、中央区、南区)
支部長 阿部 徳子 (相模原協同病院)

「看護の心を伝える～地域とのつながりを通して～」

保健、医療、福祉など、さまざまな分野で看護職が求められている中、相模原支部では、各種イベント時に、看護の心の普及啓発を行っています。2024年10月12日(土)に開催された「健活!さがみはら 健康フェスタ2024」では、「白衣の思い出!記念撮影会」や看護師の仕事や道のりについて、動画上映やパネル展示を行いました。当日、参加者から「娘が小さい頃、このイベントに参加し、本当に看護師になったんです!」と、とても嬉しい声が聞かれました。
また、若い頃に看護師に憧れていたという女性や親子、兄弟、姉妹で写真撮影をするなど、「看護」というキーワードを通して、私達支部役員も地域の方とのつながりを実感することができました。今後も看護の心の啓発を通して、地域とのつながりを深め、将来看護職を目指す方が増えるよう活動していきたいと思えます。



健活!さがみはら健康フェスタ2024

小田原支部

(小田原市、伊勢原市、秦野市、南足柄市、箱根町、湯河原町、真鶴町、山北町、開成町、松田町、大井町、中井町)
支部長 小澤 美紀 (鶴巻温泉病院)

お徳感満載の看護研究発表会

小田原支部では年間で、支部大会・講演会と3つの研修会、看護研究発表会(以下、発表会)を運営しています。中でも年度の最後になる発表会は、会場が満席になる盛況です。
2024年1月20日(土)の発表会では、12演題が発表されました。抄録の査読は支部地域内の専門看護師に依頼し、地域のリソースとして力を借りています。発表内容は分娩、小児、コロナ対応、回復期、心不全看護、防災、看護学生アンケート等、多岐に渡り、発表者も助産師、看護師、看護教員と広がっています。そして講評は、国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科の谷山牧教授にお願いしました。「丁寧で学びになる」と、谷山先生の講評を楽しみに参加する人もいます。地域の取り組みを知り、学べる機会になるお徳感満載の発表会でした。
これからも多くの方の参加をお待ちしています。



湘南支部

(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、大磯町、二宮町、寒川町)
支部長 山岡 澄代 (茅ヶ崎市立病院)

市民公開講座「報道現場から見た防災対策」開催

2024年11月16日(土)茅ヶ崎市役所において、「報道現場から見た防災対策～災害報道で伝えたいこと～」をテーマに、株式会社テレビ朝日広報局の久慈省平氏をお招きして市民公開講座を開催しました。東日本大震災や能登半島地震、台風・局地的雷雨などにおける報道の現実と、そこから見えてきた課題への各省庁や放送界全体での取り組み、そして、災害報道の見方と備えについてお話しいただきました。
私たちは災害報道をもとに行動します。国民が命を守るために自らが判断し行動できるように、その責任をプロとして果たしていくと力強く話されていました。参加者アンケートからは「具体的でわかりやすかった」「警報などの色の意味がよくわかった」など好評をいただきました。今後も地域の看護職や市民と一緒に学べる企画を考えていきます。



研修風景講師



久慈省平氏と支部委員

県央支部

(大和市、綾瀬市、厚木市、海老名市、座間市、愛川町、清川町)
支部長 渡辺 美和 (神奈川リハビリテーション病院)

「まちの保健室を開催しました!～地域とつながる～」

県央支部では、毎年11月にまちの保健室を開催しています。今年度も厚木市が主催する「にぎわい爆発国際大道芸2024」のイベント会場でブースを出展しました。計131名の方が血管年齢測定、ベジチェック、健康相談、子どもの白衣体験など、会場は大にぎわいでした。特に白衣を着たお子さん、撮影する保護者の方の熱量は高く、将来看護職を目指すきっかけになることを願うばかりです。
また、測定値に一喜一憂しながら健康観を語ってくださる地域住民とつながることで、多様な価値観に触れ、私たちが今後の看護活動に活かしていきたいと感じました。次年度に向けてまちの保健室のあり方を再考し、今後も地域住民の健康保持・増進および看護職への関心を高めるべく活動してまいります。



「まちの保健室」の様子



支部員

※記事は全て原稿執筆時(12月)の情報となっておりますのご了承ください

理事会報告

第4回 2024年12月7日(土)

I 審議事項

- 1 神奈川県看護協会関連規程の改正について
 - 1) 職能委員会規則及び支部規則の改正について 承認
 - 2) 教育研修委員会規程の改正について 承認

- 2 財政再建について
 - 1) これまで積み立ててきた資金の有効活用(案) 承認
 - 2) 財政再建のための施策パッケージ(2次素案) 承認
 - 3) 財政の中長期的見通し(最新版) 承認
 - 4) ビジョン2033改定版(2次素案) 承認
 - 5) 2025年度認定看護管理者教育課程について 承認
- 3 2025年度神奈川県看護協会役員の推薦及び立候補について 承認

II 協議事項

- 1 2025年度神奈川県看護協会重点事業(案)・事業計画(案)について
 - 1) 神奈川県看護協会の目標の改定(案) 承認
 - 2) 2025年度重点事業(案) 承認
 - 3) 2025年度事業計画(案) 承認

III 報告事項

- 1 業務報告
- 2 職能・支部理事報告

会員交流会レポート

昨年度までは、60歳以上の会員を対象に開催しておりましたが、皆様からご要望をいただき、今年度は対象を広げて企画し、多くの方にご参加いただきました。

会員交流会は、看護職の皆様のリフレッシュと、職場を超えたつながり作りを応援する企画です。

9/28(土) 60代～対象の交流会

昨年に引き続きバスツアー！今年は静岡でお茶摘み体験をしました。みんなで茶娘衣装を着ていざ出発！たくさん笑顔があふれ、「夏も近づくと」と歌声も聞こえていました。

60代～感想

楽しく気分転換できました！普段できない体験ができて良かったです。

初めての参加で不安もありましたが、同じ職業だからこそその連帯感はとても心地よかったです。

諸先輩のパワフルなお話が聞け、一日楽しく過ごすことができました。

皆様の笑顔で過ごされる表情がとてもよく、自分も笑顔でいられました。



10/10(木) 20～30代対象の交流会

横浜中華街でアフタヌーンティとパチ手相占いを楽しみました。占いを受けて「看護師は天職だって言われました」と微笑む方も。食後は街歩きガイドでプロおススメのお店を教えてくださいました。

20～30代感想

初めてイベントに参加しましたが、予想以上に楽しく参加できました。

同年代だったので話やすく、境遇も同じような方も多かったのがよかった！

他の病院の方と話せて良かったです。

ご飯も美味しくお土産もいただけてとても楽しかったです！



11/18(月) 30～50代対象の交流会

横浜赤レンガ発着のランチクルーズで、おいしい食事とワインを堪能しながら、交流を深めました！あいにくの曇り空でしたが、船内から眺めるみなとみらいの景色もステキでした☆

30～50代感想

楽しかったです。食べるのに夢中でお話の時間があっという間でした！

1人参加でしたが、さすが看護職のみなさん！コミュニケーション能力に長けていて、同じテーブルの方々と楽しく歓談することができました。

忙しい日常はわかりませんが、翌日、顔の表情が優しくなっていました。リフレッシュ出来て良い時間を過ごせたので本当に感謝です。

他施設の話、同年代ならではの愚痴が聞けて楽しかったです。



1/31(金) 男性看護師交流会

全国の看護協会初の男性会長である当協会会長の発案で、ナースマンが集まりました！みなとみらいのスパで食事しながら会長と看護についてアツク語った後は、希望者で温泉につかりリラックスタイム～

感想

交流も温泉も良かったです。またこういう機会があると良いなと思いました。

時間が足りないくらいとても有意義でした。機会を作って下さり、ありがとうございました。

今回のような交流する機会があるのはとてもいいことだと思います。引き続き定期的にこのような会があると嬉しいです。

同じ年代の方と交流する場面が少なかったのが、とても大切な時間を過ごすことができました。



かながわ看護フェスティバル2025 ご案内

2025年5月11日(日)
10:00～16:00

神奈川県総合医療会館
(看護協会が入っているビルです)

イベント内容

- ▶ 認知症VR体験
- ▶ 看護体験・模擬授業 (看護師を目指す方向け)
- ▶ 健康測定、各種相談コーナー

講演会

「認知症の人が見ている世界」



川畑智先生



第26回神奈川看護学会開催 「多様性と協働が紡ぐ未来の看護職」

2024年11月30日(土)パシフィコ横浜アネックスホールにて第26回神奈川看護学会が開催されました。今年度のテーマは「多様性と協働が紡ぐ未来の看護職」で、参加者568名、口演18題、示説22題の発表がありました。

講演会では、東京医療保健大学 副学長、看護学研究科長・教授である手島恵先生より「多様性の力と協働の鍵～ウェルビーイングとポジティブ・マネジメント～」をテーマにビデオ講演がありました。世代、働き方、職種など様々な違う人たちと働くためには、それぞれの違いを認めて、一人ひとりのウェルビーイングを大切に、働くための価値をチームで共有することが重要であるとお話をいただきました。その中で、自分がウェルビーイングの状態であるためには自分への気づきを高め、ストレスを溜めずに、自分へのご褒美をすることに触れていて、張り詰めた力が抜けて前向きな気持ちに切り替えることができました。



シンポジウムでは、「外国人職員との協働の舞台裏」をテーマに、外国籍の看護師を雇用している施設や外国人看護師ご本人からのお話をいただきました。雇用している施設からは外国人看護師を配置したことで教育指導に時間を要した一方で、職場では職員間のコミュニケーションが増えて、組織の活性化につながったとの報告がありました。また、外国人看護師のレーティハオさんからは「働く中でいくつもの壁があったが、いつでも相談できる環境や信頼できる仲間が存在が支えとなり乗り越えられた」と自身の体験について語っていただきました。人と人のつながりの大切さを実感するシンポジウムでした。

今年度の活動紹介 相談コーナーは、身体拘束の最小化、看護補助者との協働のコーナーが設けられました。活動発表では立ち見が出るほど人気があり、その後の相談コーナーでは、日頃の悩みを解決するために、多くの参加者がブースを訪れ活発な意見交換がありました。

(広報出版委員 笠井こずゑ 清水友見)



シンポジスト 右から 稲垣氏、福石氏、レーティハオ氏

第26回神奈川看護学会看護研究奨励賞受賞者

神奈川看護学会では、看護研究を奨励・支援することを目的として、平成14年度から看護研究奨励賞制度を設けています。授与式は、神奈川看護協会通常総会で行います。

奨励賞 3題

演題	施設名	発表者	共同研究者
肺癌終末期患者の呼吸困難に対する看護師の困難感	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	伊藤 綾子	山下 彩子 角田 沙生
患者のインフォームド・コンセントを支援する場における看護師らの困難感と対処	学校法人東海大学 東海大学医学部付属病院	齋藤 玲奈	榎本 結惟 鬼澤 佑奈 日下部 修也
患者が看護師に頼みにくい環境と頼みやすい環境の相違～転倒防止の環境づくりに向けて～	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	丸山 満帆	前川 美樹 小嶋 未沙

第27回神奈川看護学会 演題募集 11月29日(土) 神奈川県総合医療会館

神奈川看護学会は、幅広い分野からの研究テーマを募集し、神奈川で看護する仲間同士の情報交換、相互啓発の場となっています。研究初心者の応募も大歓迎です。

★演題登録に関するお悩み相談会を開催します。

〈演題募集期間〉
5月1日(木)～7月1日(火)

※詳細は、第27回神奈川看護学会開催要項(神奈川県看護協会ホームページ)をご参照ください。(3月中旬掲載予定)

ビッグレスキューかながわ2024

2024年11月23日(土)に神奈川県厚木市にある神奈川県総合防災センターで開催されました。防災関係機関による医療救護活動・避難所設置運営・避難所内保健医療福祉活動・ライフライン・救出救助訓練と各種展示・体験コーナーなどがありました。一部をご紹介します。

<救護活動>

ビッグレスキューと聞いて真っ先に思い浮かぶのは、神奈川県DMAT、神奈川県DMAT-L、自衛隊、在日米軍等による医療救護活動訓練だと思います。広場では、模擬患者によるトリアージや処置など実践しながらに救護訓練がおこなわれていました。



<通信手段>

災害現場では、通信手段の寸断により情報収集ができず対応の遅れにつながります。災害時は通信会社との連携と協力は欠かせないものであり、災害時の通信手段の確保は特に重要だと思いました。



<神奈川県看護協会 災害対策救護委員会>

災害時にはJMATと連携して災害支援を行っています。当看護協会のブースでは、今年も災害救護対策委員会が中心になり、展示体験コーナーで「災害時お役立ち情報」の発信をしていました。

災害対策救護委員会では、7年間にわたり災害看護について、「KANAGAWA看護だより」を通じて情報発信してきました。これまでの記事を現場ですぐに活用しやすい内容に編集し「災害看護基礎知識」としてホームページで紹介しています。



テントの中に設置された段ボールの簡易トイレ 思ったより安定感があります

<備蓄品・食事>神奈川県栄養士会

高齢者・乳幼児向けなど栄養面や調理のしやすさなど工夫された食材が多くありました。被災地でもできる温かく美味しいレシピも紹介。中でもトマトジュースを使って炊いたご飯はチキンライスのように美味しかったです。



<応急仮設住宅>

神奈川県とプレハブ建築協会では、仮設住宅を設置する際の土地の確保など、毎年情報交換を行い災害時に速やかに対応できるようにしています。

仮設住宅は地方ほど需要が多く、依頼があれば、個人宅だけではなく介護老人保健施設等も対応しています。



<被災地支援>バイク×無線

バイクの機動力と無線を活用して現地の被災状況把握・情報収集・車が入れない場所への物資搬送等を担当。様々な職業のバイク好きで作られた組織です。バイク走行のほかにも重機の操作や救護所での活動など、メンバーの専門分野を発揮しています。



神奈川県総合防災センター

地震や風水害などの災害体験ができる「防災情報・体験フロア」や総合防災センターで実施するイベント・講座や、夏休み親子防災教室など防災に関する様々な活動を行っています。また、同敷地内には次世代を担う消防士の育成機関もあります。



今、私たちにできることは何かを考えながら、日々の備えをしっかりと行おうと思った1日でした。
(広報出版委員 竹田英子・西森佳代)

こんにちは **事務局** です
TEL. 045-263-2901 FAX. 045-263-2905

2025年度新規入会・再入会 申込み受付中!

継続の方

お手元に2025年度会費の振込用紙(コンビニ用・銀行用)がある場合は、お早めに納入ください。

■新規・再入会の方へ WEB入会が便利です。

有効期間/2025年4月1日~2026年3月31日

入会費/20,000円(協会に初めて入会する方)

年会費/11,000円(日看協5,000円+県協会6,000円)

Web入会お申込フォーム



■変更申請はキャリアスをご利用ください。

施設や住所が変わったら必ず変更申請してください。

- ・住所変更・改姓
- ・会費納入方法の変更
- ・所属施設変更
- ・会員証の再発行 等



問合せ/企画運営課 ☎045-263-2918

医療安全推進ネットワーク交流会の お知らせ

対象/医療安全管理者養成研修修了者

内容/毎月1回、医療安全管理者間で安全管理を推進するための情報や課題等について組織横断的な情報交換会と研修・講演会を行っています。

参加費/無料

入会方法/協会ホームページの「危機管理」から「医療安全推進ネットワーク」を開き【医療安全推進ネットワーク入会案内】に掲載されている手順に添ってお申し込みください。

締切/・新規入会は4月30日(水)
・継続者は3月14日(金)

編集後記

陽ざしの温かさを感じる季節となり、会員の皆様は新年度の準備に向けて慌ただしい日々をお過ごしかと思えます。来年度から「看護だより」の発行が年4回になります、有益な情報が届くよう頑張っていきます。(S・Y)

2025年度通常総会

日程/6月20日(金) 9:20~13:00(予定)

場所/神奈川県総合医療会館7階講堂

参加方法/直接来場(参集のみ)、欠席者は必ず委任状を提出願います。(詳細はホームページ等で案内。)

審議・報告事項等/定款変更(案)、2024年度決算報告(案)及び監査報告、2025年度改選役員の選出、2024年度事業報告、2025年度重点事業及び事業計画、2025年度収支予算、他

総会要綱/2025年5月以降、順次ホームページに掲載します。(2025年度から冊子の個別発送は実施しません。)

問合せ/総務課総務班 ☎045-263-2914

研修「がんばれ! 新人ナース!!」

日時/5月28日(水) 10:00~13:00

場所/神奈川県立音楽堂

(JR・横浜市営地下鉄線:桜木町駅 徒歩10分)

対象者/2025年度の新卒新採用看護職員

内容/神奈川県看護協会の活動紹介、先輩ナースからのメッセージ、講演会など

*申込み方法その他詳細については、ホームページでご案内いたします。

問合せ/研修課 継続教育班 ☎045-263-2926

かながわ看護フェスティバル2025

日程/5月11日(日)
10:00~16:00

場所/神奈川県総合医療会館
5階、6階、7階

(横浜市中区富士見町3-1)

内容/5階:・看護の仕事の体験コーナー
・看護学校模擬授業
・進路・復職相談コーナー 等

6階:一日まちの保健室(測定コーナー等)
・血管年齢・脳年齢測定、健康相談、
未病対策、喫煙防止、ピンクリボン
・VR認知症体験コーナー等

7階:認知症 講演 13:30~15:00
テーマ:「認知症の人が見ている世界」
講師:川畑智氏
(株式会社Re学 代表取締役)



1階エントランスでは、
パンやフッキーの販売も
やりますよ!



問合せ/企画運営課 ☎045-263-2918

お知らせ 2025年度より「KANAGAWA看護だより」は、5月号、8月号、11月号、3月号の年4回の発行となります。

表紙の写真

~リハビリ看護へ挑戦~

医療法人社団 明芳会 イムス横浜旭リハビリテーション病院(横浜市旭区)

イムス横浜旭リハビリテーション病院は、横浜市旭区に2024年8月に新設したリハビリテーション専門病院です。脳血管障害・整形疾患などの患者さんが中心となる回復期リハビリテーション病棟120床を有しています。横浜市南西部に位置し、自然豊かな緑に囲まれた中でリハビリテーションを行うには最適な場所にあります。看護部は、患者さん一人ひとりの身体機能と日常生活動作の回復・自立に向けた支援を行いながら、QOL向上に努めています。看護師として患者さんの変化に気付ける力、思いを傾聴する力を培い、多職種と協働していく中で看護として何ができるかを考え、発信することを大切にしています。 看護部長 関直美



キャンドルサービス 火の誓い